

## やい、とかげ

舟崎靖子

ぼくは自転車をなくした。だれのせいでもない。ぼくが悪い。

自転車のかぎをかけないで、文ぼう具屋の前に止めておいた。

ろうせきを買って店から出てきたら、自転車はどこにもない。手品みたいに真昼の道路から消えてしまった。

「だらしがないったらありやしない。」

家に帰って母さんに話したら、母さんはかんかんになっておこった。

「物をなくしたからって、すぐ新しい物を買ってもらえると思ったら、大まちがいよ。」

母さんは、それきり、自転車の話はしなくなった。

次の日、学校から帰ると、いつものようにのぶちゃんが遊びに来た。

いつものように自転車で乗ってきた。

いつものように自転車で乗ったまま、ベルを鳴らしてぼくをよんだ。

ぼくは、いつものようにげんかんの戸を開けて出ていった。

「東町公園へ野球に行くよ。早く、早く！」

けれど、ぼくは、のぶちゃんといっしょに行かなかった。行かなかったのではなくて、行けなかった。

自転車の二人乗りは学校で禁止きんされていたし、東町公園まで歩いていくには一時間かかった。

「じゃあな。」

のぶちゃんは、行ってしまった。

ぼくは、自転車のベルを鳴らして角を曲がるのぶちゃんを、見送った。

お日様は、ぼくの頭の真上にある。一日は、やっと半分終わったところだ。自転車なしで、あとの半分をどうしよう。

ぼくの家のとりの原っぱを、お日様が明るく照らしている。日かげに立っているぼくにはまぶしく見える。

まるで、照明に照らし出された学校のホールのぶたいだ。これから学芸会が始まるみたいだし、もう終わってしまったみたいでもある。

ぼくは、原っぱへ入っていった。

ポケットに手を入れると、ろうせきが出てきた。

ちえっ、ろうせきなんか買に行かなければ、ぼくは今ごろ東町公園で野球をしていたらうな。ぼくがいなくて、だれがピッチャーをやっているんだろっ。こんなろうせきすててしまえ。

ぼくは、ろうせきを原っぱのすみに投げてしまおうと、ピッチャーのポーズをとった。

すると、ぼくはだれかの横目を感じた。

ぼくを見ていたのは、石の上の一びぎのとかげだった。

「やい、自転車をなくしていい気味だぞ。」

とかげの横目はそう言っていた。

生意気なとかげをおどろかせてやろうと、ぼくはとかげ

のいる石にろうせきを投げた。

ナイスピッチングだ。ろうせきは石に当たった。

けれど、それだけではなかった。石に当たったろうせきはパウンドして、とかげに当たった。

ぼくは息をのんだ。

石の上に、とかげのしっぽだけがのこった。のこったしっぽはしばらく動いていたけれど、やがて動かなくなった。ぼくはしっぽをぶら下げた。

なんて原っぱは静かなんだろっ。世界じゅうの人たちは、みんな自分の自転車で乗って、どこかへ遊びに行ってしまったんだ。世界じゅうは空っぽ。ぼくは空っぽな世界のまん中に、ひとりぼっちで立っている。

さくらの花がいちばんきれいにさいた日、明るい花の下で、ぼくはのぶちゃんと友だちになった。

あの日も、ぼくは自転車で乗っていた。

ざりがにをつりに行った日、どろやなぎの葉が風に光る川原で、ぼくはのぶちゃんと待ち合わせをした。

あの日も、ぼくは自転車で乗っていた。

まつの実、しいの実、どんぐりの実、いろんな実のふる音の中を、ぼくはのぶちゃんどこかへ急いでいた。

あの日も、ぼくは自転車で乗っていた。

冬休みに入ったさいしょの日、ぼくはのぶちゃんと学校へ遊びに行った。

ぶながねむる、こいがねむる、たにしがねむる池を、ぼくとのぶちゃんはいつまでものぞきこんでいた。

あの日も、ぼくは自転車で乗っていた。

一か月たつてから、ぼくの自転車がでてきた。どろまみれになって、町のはずれの公園に乗りすててあった。

その日から、ぼくは学校から帰ってくるのと、すぐに自転車に乗って野球をしに行くぼくになった。一度遊びに行ったら夕方まで帰らない、自転車をなくす前のぼくになった。

一か月も二か月も、あつというまにすぎた。

その日は、のぶちゃんがなかなかよびに来なかった。

ぼくは待ちきれなくて、自転車で乗ってとなりの原っぱ

でのぶちゃんを待った。

すると、ぼくは、だれかの横目を感じた。それは、石の上の一びぎのとかげだった。

ぼくは自転車をとめた。

とかげは、ぼくの方に生えたてのしっぽを投げ出して、

「見ろよ！」というように、横目でぼくを見ている。

「見ろよ！」

ぼくも自転車のベルを鳴らした。

「おうい。」

のぶちゃんが、自転車で乗ってやってくるのが見えた。

「おうい、ここだよ。」

ぼくは、自転車をこいで原っぱを出た。

ふり返ると、石の上に、とかげはもういなかった。とかげのいない石がまぶしかった。

やい、とかげ、せつかく生えたしっぽ、なくすなよ。